

令和3年度 碧南市いじめ問題専門委員会 会議録

1 日時

令和3年8月3日（火）午後2時～

2 場所

碧南市役所5階 教育委員会室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者

三宅大輝委員、定塚甫委員、坪田祐季委員 山下晋委員

(2) 欠席者

中尾啓二委員

(3) 事務局職員

教育部長 岡崎康裕、学校教育課長 小澤徹、学校教育課課長補佐 石井佐和、学校教育課指導主事 榊原純子

4 傍聴者 0人

5 議題

(1) 令和2年度いじめの現状について

(2) 碧南市いじめ防止基本方針の一部改訂について

6 議事の要旨

(1) 令和2年度いじめの現状について

事務局が会議資料に基づき説明した。

いじめ報告件数は、前年より減少したが、不登校件数が増加している。コロナ禍の影響も大きいと考えられる。

その他学校での取り組みの紹介を行った。

<主な意見・質疑>

三宅委員 「いじめ認知件数」と、「いじめの発見のきっかけ」、「いじめられた児童生徒の相談の状況」の関連性で気になったのが、「いじめられた児童生徒の相談の状況」の件数が多いが、「いじめ発見のきっかけ」や「いじめ認知件数」が少ないよう見受けられる。

相談はあったが、いじめと認定されなかったものもあるのか。数字の関連性はどうか。

- 事務局 そのとおりであることと、相談は複数回答可なので、重複するところがある。
- 山下委員 相談件数が多いのは、相談したが、納得いかなかったから他に相談したということか。
- 事務局 子供は、担任に相談したけど納得がいかないので、保護者に相談し、保護者から学校へ相談があるということだと思う。
- 最初に子供が担任に相談した段階で、担任が重く受け止め初動ができると学校から保護者に連絡を入れることができるが、そのとらえが甘いと、保護者からの連絡を受けて動くことになる。
- 三宅委員 担任に相談した件数が多いわりに、担任が認識していないのが、この数字に表れているのではないか。いじめ発見のきっかけになっていないのでは。
- 坪田委員 「相談の状況」は、訴えだけでなく、発見されたあとの相談も含むということか。
- 事務局 はい。
- 定塚委員 いじめられたと思った場合、相談のシステムができているのだろうか。
- 三宅委員 アンケート調査の様式について前回協議したが、去年も実施したか。アンケートによって発見される件数が減ったのは年度ごとの差か？
- 事務局 令和2年度も実施した。昨年のご意見をいただき、様式の見直しを行った学校もある。
- 三宅委員 書式について、意見を言ったことで、子供が書きにくくなったことはないか？
- 事務局 学校によっては、生活や学習状況を含めメンタルヘルスアンケートとしてやっているところがある。
- 以前は、アンケートが一番把握できるということを言われていたが、今は、アンケートだけでは、子供たちが正直に答えてくれなくなっている。
- 山下委員 大学でのいじめの事案では、調べてみると全部メールだけのやりとりで、コミュニケーションがとれていないということがあった。直接話せば、ニュアンスわかるが、メールだと伝わらない。コロナ禍もありコミュニケーションがとれない状況になっているところが問題であった。
- 事務局 中学校でも、学校で仲良くしゃべっているが、帰宅してからのラインの内容で、明日学校へ行きたくないとなってしまうことがある。SNSは、送る側

に悪気はなくても受ける側がいじめられたと感じてしまうことがある。

碧南市は、心の教室相談員の配置やスクールカウンセラーの相談体制をとっているが、子供が、教員以外の人に話しやすいできるように、一緒に給食を食べるなどのきっかけや場づくりが必要と考えている。ちょっとしたことを相談できる人ができることが重要と考える。

いじめがなければいいが、あったとしても初期対応が重要であることを各学校で再確認する機会をつくっていききたい。

(2) 碧南市いじめ防止基本方針の一部改訂について

事務局が会議資料に基づき説明した。

P9 の「いじめ問題への組織的な体制」の図について、重大事態が起こった時の対応がわかりにくいことから、より明確にするため、碧南市いじめ問題専門委員会の部分について意見を伺いたい。

<内容>

各委員により重大事案発生時の具体的な調査方法や碧南市いじめ問題再調査委員会との関係の確認などの話し合いがされた。

事務局 時代によって内容も変わっていく部分がある。いただいた意見を参考に見直しを行い、子供や保護者を第一に考え、碧南市いじめ問題専門委員会の立場がはっきりするように、図に書き表せない部分の検討を行い、明確化をしたいと思います。